在宅医療は健幸医療

長尾 和宏
医療法人社団裕和会・理事長
長尾クリニック・院長

今回は秋田県大館市でご両親と同居しながらパート勤めをしている42歳の女性からのご相談です。

現在64歳の父は、42歳の時、うつ病とアルコール依存症で精神科に入院したことがありますが、その後お酒をやめて無事60歳で定年退職しました。しかし仕事を辞めてからはもともとこれといった趣味もなく、家に引きこもりのようになってしまった父は、毎日のように5合以上の日本酒や焼酎を飲むようになりました。4カ月前に自宅で意識を失い病院で検査を受け、そのまま2週間ほど入院。医師から「いつ死んでもおかしくないぐらいに肝臓の数値が高くなっている。専門の病院で診てもらったほうがよい」と説明があり、母と私が何度か「精神科に入院して断酒しょう」と父を説得しましたが、その度に父が「あんな刑務所みたいなところは二度と嫌だ」「俺はいつ死んでもいいんだ」と開き直って、会話になりませんでした。退院後はしばらくお酒をやめていたので安心していたのですが、最近またお酒を飲むようになり、お酒の量も入院前より増えています。この一カ月間は食事もろくにとらず、朝からお酒を飲んでいます。普段は静かでやさしい父なのですが、今ではお酒が入ると私や母に暴言を吐いたり、訳の分からないことを叫んだりしています。先が見えない状態で、母も私も途方に暮れている状態です。何か一言でも先生にアドバイスを貰えたらと思い投稿させて頂きました。よろしくお願いします。

お答えします！

ご家族は大変なご苦労をされているかと思います。医学的にはアルコール依存症、社会的にはセルフネグレクトです。全く同じような患者さんを沢山診てきたのでその経験を書きます。

結論からいえば精神病院に入らないと死んでしまいます。アルコール依存症は「静かなる自殺」とも言われています。かなり依存度が高そうなので外来通院での断酒治療では極めて困難かと思います。

一般的に「高度の依存症」の治療はかなり難しく、アルコール専門病棟に半年くらい入院するしか手がありません。

退院後も専門の訪問看護や断酒会が関わり、長期的な支援が必要な病気です。入院さえできれば未来が開きますが、しないと未来は暗いです。

問題はどうやって入院させるか、です。本人は断固拒否します。私のような「かかりつけ医」に往診してもらい入院治療を説得するという方法もありますが、なかなかうまくいかないことが多いです。

酒を飲んでは暴れるようですが、暴力を振るうのでしょうか？　もしも周囲に手を上げるようならすぐに110番して警察に介入してもらってください。

暴力は犯罪ですからその現場を警察に見てもらい「措置入院」につなげるという手もあります。実際に入院の是非判断は措置入院の免許を持っている精神科医しかできませんが、そこに至るまでに警察組織やかかりつけ医を使うべきです。

いろんな手を使っても入院がかなわなければ、自宅でそのまま見るしかないというケースも実際は少なくありません。その際は、在宅医療で対応するしか方法がありません。主治医を請け負ってくれる在宅医を探してください。完全断酒ではなく、減酒指導と肝障害の合併症管理を目標にするのです。何もしないよりはまだマシ、という考え方です。

訪問看護師やPSW（精神専門のワーカーさん）などの保健所スタッフにも助けを求めてください。一般にアルコール依存症を家で診てくれる医師や訪問看護師は多くはありませんが、探せばいるはずです。保健所に相談して情報を得てください。お父様はまだ64歳なので介護保険の二号保険者で介護認定を受けるには特定疾患病名が必要ですので、そこは在宅医とよく相談してみてください。介護認定が受けられないなら訪問看護は医療保険で受けてください。看護師の言葉のほうが心に響く場合があります。

これまでお父様と同様の患者さんを在宅で最期まで診て、看取った経験が数人あります。みなさん2年～数年間、自宅で好きなように過ごされました。50代、60代です。家族はもはや諦めて覚悟していました。ただ、お酒を買ってくる家族が甘やかしていると判断した場合は厳しく注意しました。こうした家族をイネーブラーと呼びますが、誰かがそうなっていないか気をつけてください。善かれと思ってやっている行為が病気にしていないかです。場合によっては、本人ではなくイネーブラー家族を引き離すこともあります。

入院はしなくても本人が少しでも前向きになれば、地域の断酒会やダルクという断酒支援団体と関わってください。そうした関わりで本人の気持ちが変わり精神病院に入院した人もいます。ただし、私達が一番困るのは医療拒否です。「先生も看護師も来てくれるな！」と言われたら万事休すなので、そうならないように気を付けて会話します。そんな患者さんに慣れているスタッフでないと関われないでしょう。

結局、毎日お酒を飲みながら徐々に寝たきりになり、食が細くなり、眠るように自宅で亡くなった人も3人いました。

みな「人生会議」を何度も行い、家族は在宅看取りの覚悟をしていたので、亡くなった時も「仕方がない」と淡々と受け入れておられました。何かの役に立てば幸いです。

男の孤独死

男性の平均寿命は、女性よりも7歳短かく、なおかつ、孤独死の7割が男性という衝撃の事実！　孤独死への恐怖にむしばまれていく男たち。しかし、これだけ知っておけば、あなたはきっと、孤独死しません！父や夫や兄弟の老後が心配な女性も必読の書！

男の一人暮らしは、栄養面や衛生面など生活の質が落ち、酒に溺れるケースもある。一人暮らしのアルコール依存症の男性は、孤独死に至りやすい典型なのだそうだ。さらに、タバコ依存にはガンや火事などのリスクがつきまとう。人生に楽しみは必要だが、孤独死を避けるために依存症になるのを絶対に避ける必要があると、著者は警鐘を鳴らしている。

著　者：長尾和宏
出版社：ブックマン社
価　格：1300円＋税

きらめきプラス Volunteer

2020 April Vol.84

輝ける場所
柳沢 靖彦　柳沢 朋子　柳沢 琉斗

知的障がいのある人たちと伴に
磯野 茂　磯野 あずさ

あるがままに
中嶋 涼子×小澤 綾子